

令和5年度小松市立那谷小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	改善策（年度末・3月提出）
生徒指導（安井）	〈明るいあいさつをし、よりよい関係を築く〉	<ul style="list-style-type: none"> 企画委員会を中心にあいさつ向上の取り組みを行った。児童アンケートの「いつでも・どこでも気持ちの良いあいさつができています」という質問に対して、よくあてはまる22人、あてはまる6人、あまりあてはまらない2人であった。よくあてはまる、あてはまると回答した児童は全体の90%だった。 たてわり活動を取り入れたり、サミット実行委員の呼びかけで各委員会からの取り組みを行った。児童アンケートの「学校は楽しいですか」という質問に対してよくあてはまる23人、あてはまる6人、あまりあてはまらない2人という結果で、よくあてはまる、あてはまると答えた児童は全体の93%だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期末の児童アンケートの「いつでも・どこでも気持ちの良いあいさつができています」という質問に対して、よくあてはまる19人、あてはまる11人、あまりあてはまらない1人であった。否定的な回答をした児童数は1人に減ったが、よくあてはまると答えた児童数も減るという結果だった。また教師側から見た朝のあいさつの様子では特に中学年以下は弱い傾向がある。自分のあいさつの良い悪いを自覚しつつ、あいさつの良さを実感できる取り組みを行っていく必要がある。 サミット実行委員会を中心にたてわりを生かした取り組みを行った。2学期末の児童アンケートの「学校は楽しいですか」という項目では、よくあてはまる25人、あてはまる6人、あまりあてはまらない1人という結果だった。これからもたてわりを生かした活動を定期的に取り入れていくとよい。欠席が目立つ児童に対しては個別の対応が必要。どのような指導をしていくのか全校で共有し指導に当たっていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの「いつでも・どこでも気持ちの良いあいさつができています」という質問に対し、できている、]どちらかといえばできていると答える児童が95%以上を目指す。そのために企画委員会を中心にあいさつ向上を目指す取り組みを行い、あいさつに対する意識の向上を図る。 児童アンケートの「学校は楽しいですか」という質問に対して楽しいと答える児童が90%以上を目指す。そのために生徒指導の3機能を生かした授業づくりを推進し、児童が達成感をもち楽しいと思える授業作りを進めていく。 		
特別支援教育	〈個に応じた指導〉	<ul style="list-style-type: none"> 教職員アンケート「児童の実態や思いに合った授業に取り組んでいる」「児童が成長できる場の設定に取り組んでいる」に肯定的な回答は、100%であった。 児童が「自分は成長した」と肯定的な回答は100%であった。普段から教職員が意識して取り組んでいる成果である。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員アンケート「児童の実態や思いに合った授業に取り組んでいる」「児童が成長できる場の設定に取り組んでいる」に肯定的な回答は100%であり、「あてはまる」との回答が42%から60%になった。さらに高まるよう取り組んでいく。 児童が「自分は成長した」と肯定的な回答は93.5%であった。自分のよさを見つけられる活動を増やし、わずかな伸びでも認める声かけをしていく。また、周りとは違うのではないことも合わせて児童に伝えていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 個の見取りを十分にを行い、必要な場合は必要な部分における支援を行う。 児童が自分の良さを実感できるような声かけやコメントなどを意識して行う。 		
読書教育（道場）	〈読書の質と量を高める〉	<ul style="list-style-type: none"> 必読書を児童の発達段階にあったものに選定し直し、ブックトラック等の配置など、本を手取りやすい環境に整えてきたことで、低学年は42%、高学年は75%達成し、読破率も上がってきている。しかし、学年によって読破率や読書量に差があった。 図書委員会の活動では、ピリオバトルを開催し、児童の読書に対する意欲が高まってきていることも感じられる。 各学年、国語の学習単元と合わせて本の活用を進めていくことができさまざまな成果物から分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書量の少ない児童には、個別に声かけをしていくことで、全ての児童が必読書を達成することができた。達成した児童には、新たな必読書のカードを渡し、継続して読書の質を高めていくことができた。 マルチメディアルームの設置、ブックトラックの配置、お宝バスケットといった環境作りを進めていくことで、学習のニーズに合わせて、児童が自ら本を手にとり読み進める姿も見られるようになってきた。
	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の必読書の見直し、選定を行い、読破低学年100%、高学年80%、年間100冊以上借りるといふ全校目標の達成率100%を目指す。 子どもの学習のニーズに応えられるよう、読書環境を整備し、学校図書館を学習・情報センターとしての機能も高めていく。 		
保健教育（高林）	〈自分の身体や健康に関心を持ち、生活改善を図る〉	<ul style="list-style-type: none"> 全項目〇の児童は80%以上で目標達成できた。「はやね」「テレビ・ゲーム」は他の項目と比べると低い結果であった。また、睡眠前の過ごし方は、ゲームや動画視聴をしている児童が多い傾向にあった。 健康診断でむし歯の罹患率と肥満の児童の割合が多い結果となった。むし歯は受診が必要な児童に個別の保健指導を実施した。 肥満の解消に向けて学校保健委員会ではエアロビクスを実施した。運動の楽しさや運動の効果を理解する良い機会になった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「はやね」「ゲーム・テレビ」は他の項目と比べて低かったため実態を把握し、保健指導を実施した。児童に意識づけさせることが難しかったため、委員会や教育講演会、学校保健委員会等を通してその都度指導していく必要がある。 むし歯を予防していくために給食後の歯磨きの見守りや個別指導を実施していく。また、個人懇談等を通して未治療の児童の保護者には受診勧告を行う。 肥満の児童には、定期的に体重測定の実施や個別に保健指導を実施していく必要がある。 保健室の様子や生活習慣チェック、健康観察、欠席状況を日々教職員間で情報共有する。健康課題がある児童は、個別に対応していく。
	<ul style="list-style-type: none"> 2週間に1回生活習慣チェックを行い、全項目〇の児童80%以上を目指す。 生活習慣チェックや健康観察、保健室利用、欠席状況等から児童の健康課題を把握し、改善を目指す。健康課題解決に向けて、学校保健委員会に講師を招き講義してもらうことや、児童の健康委員会の取り組みを定期的に保健だより等で啓発していく。 		
家庭地域との連携（嘉宮・山前）	〈地域や家庭と連携し効果的な学習活動を仕組む〉	<ul style="list-style-type: none"> 生活科や総合的な学習の時間で「町のせんせい」を取り入れることで、児童の感想や成果物から地域に関心を持ったことが分かった。また、学年によっては、今後、学んだことを発信していくことを計画している。 保護者アンケート「発行されるおたよりやお知らせで学校の様子や必要な情報がわかる」の項目で肯定的な回答は96.8%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「町のせんせい」を教育活動に取り入れることで児童は地域の魅力を知り、大切にしていこうとする気持ちが育つように感じる。来年度も、生活科や総合的な学習で地域のよさや魅力を学べるよう設定していく。 保護者アンケートでは「学校の様子や必要な情報がわかる」の項目では、83.9%であった。今後も保護者に情報が伝わるよう発信方法を工夫していく。
	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に「町のせんせい」を生かした活動を学校教育に取り入れ、地域に興味関心を持ち、学んだことを発信していく。その際、地域に発信することを見据えた学習計画を立てる。 通信などを通じて、地域や家庭に学校の教育活動について情報発信をしていく。 		
ICT活用（木村）	〈ICTを活用した授業〉	<ul style="list-style-type: none"> 帯タイムに、学習用端末を使用する時間を設定し、Qubenaやキーボード島などのローマ字入力練習に取り組んだ。4年生以上は、ローマ字入力のスピードや正確性が上がった。 県の研修サポートを活用し、Teamsの活用について校内研修を実施でき、良い機会となった。授業でのICTの活用について、共有する時間を取った。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習においてもTeamsの機能を活用した課題やローマ字入力の練習をしていく。3年生以上は、1分間に入力する時数を決め取り組む。 ICTインストラクターのサポート訪問を活用した授業があまりできていなかったため、ICTインストラクターと連携した授業実践を行い、教員のICT活用指導力を高めていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ICT指標に基づいて学年に応じた技能を身に付けさせる。4年生以上はローマ字入力の習熟を図る。 タブレット活用方法について、市のサポートを効果的に活用するなど校内研修を進め、教員のICT活用指導力を高める。 		
環境整備（山前）	〈児童・職員が活動しやすい環境づくりに努める〉	<ul style="list-style-type: none"> スクールサポートスタッフにより常に活動しやすい環境が保たれている。また、職員作業を行い、不要なものを廃棄するなどして整理整頓に努めている。 児童の作品や成果物には、教師の温かいコメントを記入し、学習過程であってもがんばっていることを認めている。また、掲示の仕方にも工夫が見られ、子供たちの意欲にもつながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員や児童が「自分たちの活動環境である」という意識はあまり高まらなかった。自分たちで環境を整えていく部分とスクールサポートスタッフに任せる部分と話し合いを持ちながら決めていきたい。 来年度も引き続き、作品や成果物へのコメントを記入し、学習過程での頑張りを認め、声かけも続けていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 物品の整理整頓に努め、活動しやすい環境を保つ。 個の良さを認めたり、児童が自主的に活動できるように教室環境に努める。 		

学校関係者評価	<p>学校の教育活動について説明した後、感想や質問・意見をいただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習用端末でローマ字入力ができるよう取り組んでいるがノートは使用しないのか。→授業の中では、付箋機能を活用してキーワードやコメントを書くことに使用している。授業のまとめなどはノートを使用している。まだ、ノートの使用率が高い。 今後紙ベースがなくなる時代があるので、ローマ字入力できるよう取り組んで欲しい。 1/1の能登半島地震を機に家庭での災害の時のルールの確認を呼びかけて欲しい。 災害時の思いやりや助け合う心は日本人のよさなので、子供たちにも道徳の時間などを通して話をしていってほしい。（災害時はお互いに助け合って生活することや高学年がリーダーとなって低学年に思いやりを持って接するなど） 学校で災害が起きたときは、→大きな災害の時は、引き渡しになる。職員は携帯を常に持ち、緊急地震速報などに対応できるようにしている。引き渡し訓練なども行う。
---------	--